與宇都宮君書

楊聯陞

（楊聯陞君は現在北京の錢稻孫氏の下で華日辭典の編纂に從つて居る若い學者である。今年の夏私が北京を訪れた時錢氏の邸で君に會ひ、懷しい人に面會した時の樣な喜びを感じた。此の手紙は私が東方學報第九册へ寄稿した書評を楊君が讀まれて直ぐ書かれた熱意ある返信である。楊君には無斷であるが純粹に學術上の通信なので何等か寄與する所あればと思ひ本誌に發表する。楊君幸に諒恕せられよ。

（宇都宮生）

大著今晨奉到謝々。所論各點甚精佩服佩服。關於党錮問題、　足下謂是「政治力」與「豪族力」之相抗較爲得其根本。或說是漢代「政治力」之廻光返照、卽最後的對豪族試行抑壓、亦無不可。蓋豪族在桓靈之際、形態有三。

一、依附宦官者。（如党錮列傳中、羊陟傳稱「時太尉張顥、司徒樊陵、大鴻臚郭防、大僕曹陵、大司農馮方、並與宦豎相姻私、公行貨賂」又岑晊傳所記宛之富賈張汎、賂遺中官、用勢縱橫、等）

二、與淸流士大夫通聲氣者。（如三君等）

三、不問政治只圖自己發展者。

拙作中對第二種豪族、重視過甚。淸流之所以爲淸仍在其「不避權豪及大姓」也。

但淸議本身、未必果淸。往往只爲沽名釣譽、或卽爲豪族相爭之工具。如党錮傳論所記「天下規矩房伯武、因師獲印周仲進、二家賓客、互相譏揣、遂各樹朋徒、漸成尤隙、於是甘陵有南北部」房周兩家、皆在朝、且有賓客、其爲豪族無疑。

陳君「魏晉時代之族」未利用華陽國志、是一缺點、似當指出。

承　敎甚感。匆覆、卽頌

宇都宮先生著祺　　楊聯陞敬上

十一月十四晚